

## 日本鉄鋼協会記事

### 理事 会

**第3回理事会** 開催日：5月23日。出席者：佐野会長  
他 37 名。

#### 会議事項

##### 1. 専務理事海外出張報告

5月1日の専務理事会議が主な目的であつた。この会議では鉄鋼技術の情報の国際化が討議された。英国鉄鋼協会を出しているワールドカレンダーは採算を度外視して今後も発行することになった。またモーレイ氏の退官に対し各国よりの挨拶プレゼントが贈られ氏の功績を賛えた。アメリカでは鉄鋼協会のローチェ氏と会見し、来年予定している視察団の件につき話したが、時期に少し問題があるとのことであつた。また各社に対して協会としては受入れの働きかけが困難なので企業同志のトップレベルの話し合いが望まれるとのことであつた。

##### 2. 表彰奨励候補選考小委員会の改組の件

中司庶務分科会主査から現在の小委員会は構成員が少なすぎるので充実したものとするため企画委員会の下に新たに表彰奨励分科会を設置することを提案し承認された。

##### 3. 特別資金運営委員会規程変更の件

特別資金運営委員会は、八幡製鉄渡辺資金、石原研究資金のほか新たに川崎製鉄西山記念資金の運営ならびに支出を審議することとする規程改正を決定した。

##### 4. 昭和42年秋季講演大会実行委員長委嘱解囑の件

昭和42年秋委講演大会実行委員長森永孝三君転勤のため同君の実行委員長を解囑し竹内秀夫君（富士製鉄室蘭製鉄所副所長）に実行委員長を委嘱することを決定した。なお北海道支部長も森永孝三君から竹内秀夫君に交代した旨報告があつた。

### 企画委員会

**第3回委員会** 開催日：5月16日。出席者：吉崎企画  
委員長、他 15 名。

#### 会議事項

##### 1. 企画委員会規程変更の件

表彰奨励分科会をすでに設置した形で入れてある。分科会の構成が規程にうたっていない。また構成員の委嘱の事項はつきりせぬので、庶務分科会でもう一度審議することになった。

##### 2. 研究委員会規程、資料委員会規程、標準試料委員会規程制定の件

研究委員会については目的をうたつたこと、業務の配置を変えたことなど内容にはあまり変化はない。

資料委員会については構成のルールを簡単にした。また会議の多数決制についてはこの規程だけに規定するのは他とバランスがとれないので内規に含めてもらいカットすることになった。

編集委員会規程については委員会の構成をうたつて

おらず、また特異なものでもあり、編集委員会と話し合いの上決定することになった。

なおこれら3件も含めさらに庶務分科会でもう一度調整し直すことになった。

##### 3. 高分子学会主催第16回レオロジー討論会共催の件 辞退することに決定。

### 研究委員会

**第3回委員会** 開催日：5月23日。出席者：三本木委  
員長、他 18 名。

#### 会議事項

##### 1. 技術講座に関する検討

技術講座小委員会から、技術講座に対する考え方の第11回技術講座以降の計画に関する検討結果が報告された。

##### 2. 基礎研究に関する検討

基礎問題小委員会から今後の当小委員会のあり方の報告があり、鉄鋼基礎共同研究会の溶鋼溶滓部会微量元素部会の来年度協会資金研究計画について検討され、パナジウムに関する研究を行なうことが了承された。

また、リムド鋼中介在物の協会資金研究状況の報告が行なわれた。

##### 3. 教育問題に関する検討

他学会の取り組み方を調査し次回再検討することになった。

### 編集委員会

**第4回和文会誌分科会** 開催日：6月13日。出席者：  
荒木主査、他 17 名。

#### 会議事項

##### 1. 論文審査報告

2. 依頼論文の推せんがあり5件について著者の意向を尋ね、その結果により依頼する。

##### 3. 抄録について

抄録を会誌に載せるについて、その責任は本分科会にあり、抄録についての責任者も本分科会から選ぶことに決定。次回選定する。

##### 4. 寄稿規程について

- (1) 論文については制限枚数を設けない。
- (2) 寄稿規程解説を作り新方式を説明する。
- (3) 技術報告は制限枚数26枚とする。
- (4) 寄書は会員以外の人にも投稿できる。
- (5) 英文要旨は200語程度とする。

##### 5. 特別講演について

第74回大会の特別講演1件について北海道支部から示されたテーマについて検討し、北海道支部にご検討願うことに決定。

**第4回欧文会誌分科会** 開催日：6月19日。出席者：

橋口主査, 他 13 名.

会議事項

1. 現在 Transactions 海外寄贈先は 255 カ所あるがこれらを①先方の刊行物と交換, ②会員に勧誘, ③恒久的に寄贈の 3 つに分類し実施する.
2. Transactions の英文寄稿規程が決定した.
3. Transactions Vol. 7, No. 1 の講評
  - ① 論文著者が会員か非会員かを記載することの要否については今後検討する.
4. その他 原稿審査報告  
依頼論文の推薦がなされた.

**第 1 回出版分科会** 開催日: 6 月 7 日. 出席者: 佐藤主査, 他 6 名.

会議事項

1. 分析部会報告書について  
提出された出版企画書にもとづいて検討した. 内容的に 3 つに独立したものが提出されているので, 内容審査の後体裁, 領価等検討することになった.
2. 「鋼の熱処理」編集について  
昭和 32 年出版の「鋼の熱処理」の増補改訂版の出版希望があり検討した. 委員会は本分科会とし, 目次の改正案を次回までに作成することになった.

**評 議 員 逝 去**

本会評議員嘉村平八君 (九州工大名誉教授) は 6 月 28 日逝去されました. 謹んで哀悼の意を表します.

本会評議員石田稔君 (日本金属副社長) は 6 月 30 日逝去されました. 謹んで哀悼の意を表します.

**共 同 研 究 会**

**運営委員会** 開催日: 5 月 24 日. 出席者: 佐野会長, 他 33 名.

会議事項

1. 部会長, 主査, 委員, 幹事の任期満了について  
部会長, 主査, 委員, 幹事の任期は 2 年であり, 今年 4 月 30 日で任期満了になったが, 原則として再委嘱することを決定した
2. 共同研究会の運営について
  - (1) 電炉普通鋼メーカーは製鋼部会に加入してもらうか特殊鋼部会に加入してもらうかさらに検討する.
  - (2) 鋼材の疵の名称統一を今年中に仕上げる.
  - (3) 「設備と要員」「部会と前後工程の関連」等を各部会共通議題として取りあげたい旨協会から出たが関連する部会で必要に応じて取りあげれば良いということになった.
3. 共研関係資料の「鉄と鋼」掲載について  
「鉄と鋼」は冶金技術に関する論方が大部分を占めているが, 内容をより豊富にするため設備技術, 品質管理, I E などの資料を共研提出資料のうちから選んで掲載する. 共研から編集委員を推せんして共研資料を選ぶことになった.

**圧延理論分科会**

**第 31 回分科会** 開催日: 3 月 16, 17 日, 出席者: 岡本主査, 他 47 名.

会議事項

- 第 1 日目は, 下記主要議題について研究調査発表があり, 質疑応答および討論が行なわれた.
1. 変形抵抗関係について  
キルド鋼の熱間変形時の挙動について他 4 発表
  2. 熱間圧延関係  
分塊圧延機の圧延荷重の検討他 4 発表
  3. 冷間圧延関係  
圧延潤滑油の添加剤効果他 4 発表
  4. 製管関係  
押出時に円弧ダイス面にかかる応力分布について他 3 発表
- 2 日目は愛知製鋼知多工場の見学を行ない一応今回のスケジュールを終了し, 午後より, 関係者による「圧延理論と変形抵抗」の編集委員会を行なった.

**鋼 板 部 会**

**分 塊 分 科 会**

**第 24 回分科会** 開催日: 6 月 13, 14 日. 出席者: 荒木主査(代), 他 79 名.

会議事項

- 日本鋼管福山製鉄所山下所長の挨拶に続いて議事に入り, 下記議題について各社より資料に基づいて説明があり, 質疑応答, 意見の交換が行なわれた.
1. 操業調査表および作業時間調査表
  2. 能率向上対策
  3. 分塊設備の自動化
- 2 日目は新鋭の福山製鉄所, 分塊工場およびホットストリップ工場を見学してスケジュールを終了した.

**ホ ッ ト ス ト リ ッ プ 分 科 会**

**第 6 回分科会** 開催日: 5 月 12, 13 日. 出席者: 吉田(主査代), 他 50 名.

会議事項

- 日新製鋼呉製鉄所大山副所長および吉田幹事より挨拶があり, 続いて議事に入り, 下記議題について各社より資料に基づき説明があり, 質疑応答, 意見の交換が行なわれた.
1. ホットストリップ操業成績
  2. コイル幅および断面形状の実態とその管理方法
  3. 設備調査関係
    - (1) Shear, Skinpass について
    - (2) Crop shear, Slitter について

なお第 4 議題の板に発生する各工程疵の分類に関しては, 時間の関係で審議できず前回のスケール疵と同様在京委員会で検討し, 次回の分科会に計ることにした.

2 日目は日新製鋼呉製鉄所のホットストリップ工場を主体とした見学を行ないスケジュールを終了した.

**コ ー ル ド ス ト リ ッ プ 分 科 会**

**第 5 回分科会** 開催日: 5 月 17, 18 日. 出席者: 吉田主査代理, 他 82 名.

会議事項

川崎製鉄千葉製鉄所植山工場長および吉田主査代理の挨拶に続いて議事に入り、下記議題について各社より資料に基づき説明があり、質疑応答、意見の交換が行なわれた。

1. クーラント関係の設備調査
2. AGC 関係の調査諸元と AGC の効果について  
工場見学は、千葉製鉄所第1熱延、冷延工場および大洋製鋼のコンビネーションミルラインを見学した。

## 条鋼部会

### 大形分科会

**第6回分科会** 開催日：6月7、8日。出席者：中島主査，他54名。  
会議事項

1. 新入会社紹介および会社概要の説明  
今回より新たに入会した大谷重工業(株)より会社概要生産規模等について説明があった。
2. 各社研究資料の報告および討議  
各事業所より、提出資料に基づき、次の研究報告がなされ、討議された。

- (1) 工場操業状況報告
- (2) 冷却床の現状と問題点およびその対策
- (3) 設備保全と問題点およびその対策
- (4) 自由研究

3. 疵名称統一について  
製品疵名称統一について、鉄鋼協会より作成依頼があり、各社疵サンプルを準備し、8月上旬頃そのサンプルを持ち寄り、小委員会を開催することになった。

### 中小形分科会

**第22回分科会** 開催日：5月25～27日。出席者：中西主査，他100名。  
会議事項

1. 中小形分科会主査交替の挨拶  
今回分科会より、主査が涌島氏より中西氏に交替したので、紹介および挨拶があった。
2. 新入会員紹介および挨拶  
今回より新たに、大谷重工業(株)東海鋼業(株)の加入があり、挨拶および各会社内容の紹介があった。
3. テーマ研究発表討論  
全委員をA、B2グループに分け、各グループごとに次のテーマで研究発表があった。  
Aグループ：カリバーガイドの種類および材質とその装着方法  
Bグループ：精整以降の設備と成品の流れについて
4. 自由研究発表討論  
各事業所1件ずつ、研究事項の報告があり、討議された。

### 線材分科会

**第24回分科会** 開催日：5月16、17日。出席者：有沢主査，他45名。  
会議事項

1. 工場作業実績表報告検討  
各事業所より提出資料に基づき、工場操業状況が報告され、質疑応答がなされた。

2. 圧延用ロールについて  
アンケート方式でまとめた資料につき、概要説明質疑応答が行なわれた。
3. 線材検査方式について  
各社の検査方法について、あらかじめアンケートを求めていたので、そのとりまとめの概要説明があり質疑応答が行なわれた。
4. 異材混入防止管理システムについて  
アンケート方式でまとめた資料につき概要説明、質疑応答が行なわれた。
5. 自由議題  
各社より「圧延のタイムスタディーおよびループの伸びの計算方法」または「圧延条件とメインモーター負荷との関係」の2議題の中から1議題を選択し、研究報告がなされた。

## 鋼管部会

**第8回部会** 開催日：5月19日。出席者：原田芳部会長，他85名。  
会議事項

1. 共通議題  
扁平試験の判定基準となる伸び率と肉厚/外径で表わされたJISの式を実験値と比較し、検討した。Peakingおよび溶接部等がおよぼす影響が今後の課題であることがわかった。
2. 継目無分科会特別議題  
マンネスマン関係  
ピアサーで発生する偏肉のプラグミルでの矯正度、プラグミルで発生する偏肉のリーラでの矯正度を調査するため共通実験を行なった。  
押し出し関係  
ダイス角度、マンドレおよびコンテナとピレットのクリアランスなどが偏肉におよぼす影響を調査した。
3. 溶接管特別議題  
溶接不良の分類と原因対策、高周波溶接における化学成分と溶接性の限界の検討、サブマージが溶接製管設備の紹介を行なった。

## 熱経済技術部会

**第36回部会** 開催日：2月23、24日。出席者：桑畑部会長，他55名。  
会議事項

1. 鉄鋼工場におけるエネルギーバランス  
41年度分作成様式の検討を行ない、42年度分科会では新作成様式にしたがい各社報告することになった。
2. タイルレキェベレータの使用実績とその劣化防止対策について  
各社の使用実績、改善経過、問題点など現状の調査から劣化要因の究明および寿命延長対策の研究発表があり、種々討議された。なお今後耐火物分科会を設置し、掘り下げて研究することになった。
3. 経済的空気予熱装置に関する研究  
高温送風に対する熱風炉燃料対策としてBガスを

ベースにし、燃焼用空気の予熱およびCガス、重油  
プタン各添加について比較検討した報告があつた。

4. 炉の設備方式と操業方式の改善効果  
加熱鋼材の均熱性向上を図るため、均熱炉床に溝  
を掘り鋼材下面の加熱促進を図つた例が報告され  
た。
5. 工業窯炉のばい煙防止について  
設楽委員から公害に関する中央の動向について報  
告があつた。

#### 耐火物分科会

**第1回分科会** 開催日：4月11日。出席者：吉田主査  
他 36 名。  
会議事項

1. 耐火物分科会設立の経過報告  
熱経済技術部会河村幹事より、標記分科会設立ま  
での経過報告が行なわれた。
2. 各社における耐火物研究に関する運営組織および  
問題点  
各社提出資料に基づき、説明され、質疑応答が行  
なわれた。
3. 分科会の当面および今後の研究テーマおよび運営  
方針について  
分科会の今後の運営方法、取り上げるべき研究テ  
ーマなどについて討議された。

#### 計 測 部 会

**第37回部会** 開催日：6月15, 16日。出席者：桂部会  
長, 他 70 名。  
会議事項

1. 共通議題
  - (1) 各社電子式交換器の稼働実績調査  
21編の資料が提出され稼働の状況、精度の推移、  
故障率などについて発表された。
  - (2) 保守基準の決定  
保守費が効果的に使われているか否かのチェック  
保守費管理の総合的見地からみた改善重点の発見方  
法など各社で行なっている経験に基づいて発表があ  
つた。
  - (3) 自由議題  
製鉄関係(4編)、製鋼関係(2編)、計測技術の改  
善(7編)、その他(4編)の資料が提出され討論が行  
なわれた。
  - (4) 特別講演  
ICの現状について日本電気(株)佐々木氏により講演  
が行なわれ非常に有意義であつた。

#### 秤 量 分 科 会

**第23回分科会** 開催日：6月1, 2日。出席者：中沢  
主査, 他 40 名。  
会議事項

1. 共通議題
  - (1) 秤量機の簡易検査  
貨車スケール、トラックスケールなどけんこう錐  
を主にした簡易検査について4編の資料が発表さ  
れた。
  - (2) 秤量機の動的精度

ホツパースケールの分鋼検査と実量検査について  
発表があつた。

#### 2. 一般議題

溶銑の秤量ほどの程度の精度がいるかまた貨車ス  
ケールとクレーンスケールとどちらが適当かについ  
ての報告、クレーンスケール小委員会より造塊用ク  
レーンスケールの報告、貨車スケールの無人化に関  
する報告があつた。

#### 新 技 術 開 発 部 会

##### 直接還元法分科会

**第16回分科会** 開催日：5月8日。出席者：松下主査  
他 28 名。  
会議事項

1. 転炉ダストから製造したペレットの回転炉による  
還元に関する研究(第3報)

第1報、第2報に続いて、金材研田中氏より説明され  
た。本報では固定層還元における石炭の銑柄の影響、硫  
酸滓との混合ペレットの還元パッチ式回転炉による還元  
実験について説明が行なわれた。

2. 還元ペレットの再酸化性の測定法について

還元ペレットの運搬中や貯蔵中における再酸化の問題  
の研究の1つとして、再酸化性の測定法について検討し  
た結果の報告で次のような方法を用いて比較検討を加え  
ている。

- (1) 屋外曝露試験機
  - (2) 発露型腐食試験機による方法
  - (3) 電気化学的方法
  - (4) 湿空气中における加熱再酸化法
- 以上について報告が行なわれた。

#### 鉄 鋼 分 析 部 会

##### 蛍光X線分析分科会

**第11回分科会** 開催日：5月26日。出席者：川村主査  
他 36 名。  
会議事項

蛍光X線分析法による鑄鉄、銑鉄、炭素鋼および低合  
金鋼の共同実験をとりまとめた結果次の結論を得た。

全域一次回帰可能なもの

Si, Ni, Cu, Ti, As, Nb, Co, Sn

一部試料を除いて一次回帰可能なもの

Mo, V, W

補正必とするもの

Mn, Cr, P, S

参考にとどめるもの

Pb

これらの成果はまず共同実験の成果という観点からま  
とめ、JIS 他についてはそのあとの問題と考える意見が  
多かつた。

#### 設 備 技 術 部 会

##### 銑鋼設備分科会

**第1回分科会** 開催日：5月18日。出席者：上島主査

他 69 名.

#### 会議事項

製鉄機械のより以上の発展を目的としてこの分科会は昨年11月に誕生したもので今回は第1回目であり、製鉄メーカー、機械メーカーからの講演を主題に会議は進められた。

今回はテーマを「焼結設備の大型化に関する問題点」に絞った。有益な意見が多く出されかなり盛会であった。将来テーマをさらに発展させていきたいと考えている。

#### 講演テーマと講演者

1. 焼結の将来と傾向 富士製鉄 下村 泰人
2. 大型焼結機の設備的問題点 八幡製鉄 永島 政治
3. 大型焼結機の設計上の問題点について 住友機械 長尾 政治
4. 焼結設備の大型化について 三菱重工 小林 正彦
5. 最近の日立造船ルルギ式DL設備について 日立造船 多木万寿雄
6. 焼結設備大型化のための問題点 石播 斎藤 多郎

#### クレーンスケール小委員会

**第6回小委員会** 開催日：5月29日。出席者：岡部委員長，他 20 名。

#### 会議事項

1. 試験研究終了届出書の審議  
本研究を通産省鉱工業補助金を受けて行なつたので報告書を提出する必要がある、試作機化様、使用結果などを記送した報告書を作成し、審議した。
2. 経過報告  
故障、保守、精度など使用状況の報告があつた。

### 鉄鋼生産設備能力調査委員会

#### 圧延設備総合部会

**第2回部会** 開催日：5月24日。出席者：作井部会長 他 21 名。

#### 会議事項

1. 各部会、分科会の進行状況報告  
設備能力算定式の見直しについて、本年1月開催された第1回圧延設備総合部会以降の進行状況が各部会分科会ごとに報告された。
2. 連続加熱炉の能力算定式作成について  
連続加熱炉は圧延設備部会内の共通した設備であり、能力算定式作成に当たっては、統一した考え方で進むべく、協力を要請した熱経済技術部会と今後の進め方について共同討議を行なつた。
3. 簡略式の作成について  
通産省島田技官より厚板設備、溶銑平炉設備について作成した簡略式の model form が説明され、今後の進め方について討議した。
4. 各部会、分科会の問題点提起および検討  
各部会、分科会で見直しの作業を進めてゆくに当たり生じた問題点が提起され、討議された。

### 鋼板設備部会

**第2回ホットストリップ設備分科会** 開催日：6月1日。出席者：吉田主査代理，他 17 名。

#### 会議事項

ホットストリップ設備能力算定方式の見直しを、アンケートにしたがつて今後検討すべき項目について打合せをした。

ホットストリップミルの能力算定方式については、各社とも見直しの必要があるとの意見に基づいて討議した結果、加熱炉は熱経済部会の協力を得て、根本的に見直し、圧延機は係数などを簡単に見直す必要があるということで、幹事が調査表を作成してアンケートを取り、次回検討することになった。

**第2回コールドストリップ設備分科会** 開催日：5月30日。出席者：吉田主査代理，他 16 名。

#### 会議事項

コールドストリップ設備能力算定方式の見直しを、アンケート集にしたがつて、今後検討すべき項目について打合せした。

タンデムコールドストリップミル能力算定については各社とも見直しが必要であるとの意見に基づき討議した結果、内容的には基本的改定は必要ないが、諸係数の内容を見直す必要があるということになった。

レバースミルについては80"ミルの問題が動機となつて算定式の根本的再検討の方法を検討することになった。

以上の結果幹事が調査表を作成してアンケートを取り次回検討することになった。

### 条鋼設備部会

**第1回大形設備分科会** 開催日：3月23日。出席者：中島主査，他 19 名。

#### 会議事項

1. 大形設備分科会の委員構成について  
新しく算定式の見直しを再開するに当たり、分科会の委員構成について検討した。
  2. アンケートの集約結果報告および討議  
前に共同研究会大形分科会において、アンケートを求めていたが、その集約結果がまとまつたので報告され、討議された。特に問題となつたのは次のとおりである。
    - (1) 稼働時間の定義：週休などの扱い方および定期修理、型替時間を再検討する。
    - (2) 圧延歩留：現状は、標準歩留は1つであるが、サイズ別に設定する必要がある。
    - (3) 冷却床以降の設備能力算定式：品種によつては設備能力を規制する場所があるので、何らかの算定式を定める必要がある。
  3. 簡略式の作成について  
通産省島田技官より、趣旨説明があつたが、従来の算定式の見直しを優先し、簡略式については、他分科会の状況を見て検討することに決定された。
- 第2回中小形設備分科会** 開催日：5月19日。出席者：中西主査，他 16 名。
- #### 会議事項
1. 標準稼働体制について

交代数と拘束時間計算能力と実際能力の関係などが問題となり、種々検討された。

## 2. 加熱炉設備について

熱経済技術部会でとりまとめを行なった、算定方式に基づいて、各社設備の再調査により補正係数の修正を行なった。

## 3. 圧延設備について

焼減率、送り間隔が問題となり、再検討された。

## 4. 切断設備について

諸係数の見直しを実施した。特にホットシャーの算定式が問題となった。

## 5. 冷却設備について

冷却設備はネックとなつていないのと、強制冷却部切断温度の事情により適確な算定は困難であるため考慮しないことにした。

## 6. 品種のグループ化について

サイズ集約により代表サイズで算定することにした。

**第2回線材設備分科会** 開催日：4月26日。出席者：有沢主査，他14名。

### 会議事項

#### 1. 加熱設備について

熱経済技術部会の資料に基づき、係数  $K_1$ 、加熱材料寸法の表現、算出式について討議された。

#### 2. 捲線機設備について

波動係数、制御係数、実働係数について討議された。

#### 3. 送線機設備について

送線機能力  $P_s$  の算定式、実働係数について検討され、後者については考慮しないことになった。

#### 4. その他

圧延機型式分類、製品寸法断面積、捲線ピンチロールについて討議された。

### 鋼管設備部会

**第5回部会** 開催日：6月6日。出席者：山田主査代理，他17名。

### 会議事項

#### 1. 継目無管設備分科会

マンネスマン・ブラダミルについては前回で見直しを終了し簡略式の検討に入った。押出については今回よりマンネスマンの例にならつて検討を始めた。

#### 2. 溶接管設備分科会

電縫管については、設備バランス係数および設備使用係数を除き見直しを終了した。次回実績より前記係数を決定することになった。スパイラル設備については7月より電縫管にならない見直しを始めることになった。

### 石炭成型法委員会

**第4回委員会** 開催日：6月13日。出席者：久田委員長，他15名。

### 会議事項

装入炭の水分%，粒度に種々の水準を設け最も装入嵩密度が大きくなる点を求め、作業能率の向上に寄与する

ことを目的として鋭意試験を進めてきたがこの度試験が終了したのでその検討が議題の中心であった。

### 結果の概要

1. 装入炭の水分が減少し、かつ粒度が大になるほど嵩密度は大になる。
2. 炭化室の縦方向には格別の粒度偏析はないが、横方向においては装入口直下に試料石炭の3mm以上の粗い部分が集まる傾向にある。
3. 発壁について心配ない石炭水分の限界は5%である。

なお本試験を終始熱心に遂行してくれた京阪煉炭社長西口小太郎氏宛に日本鉄鋼協会佐野会長名の感謝状を贈呈しその労にこたえた。

### 標準化委員会

#### 鋼管分科会

**第13回分科会** 開催日：5月26日。出席者：桑原主査他14名。

### 会議事項

JIS ボイラ・熱交換器用鋼管改正案をまとめた。工技院へ答申する前にユーザーの意見をきくことになった。

#### おもな改正点

- (1) JIS 配管用鋼管の改正にともない、改正される点。
- (2) SUSTB にHグレードを追加する。また、Ti, Nb の上限をはずす。
- (3) STB 3, 4種のSiの下限をとり、必要な場合は下限を0.1%とすることができるという表現にする。
- (4) STB はつば出し試験をなくし、押拵げ試験とする。

#### 機械試験方法分科会

**第15回分科会** 開催日：4月28日。出席者：吉沢主査他15名。

### 会議事項

TC17総会（モスコ）において審議さるべき議案document 17N 795~797 および document 17N 737 についての提案事項を取り決めた。また document 17N 772（伸びの換算）については、さらにその適否を次回に検討することになった。

その他 ASTM より日本規格協会宛に申し出のあつた事項およびクリープ委員会からの申し出事項についての検討を行ない意志統一した。

**第16回分科会** 開催日：5月23日。出席者：吉沢主査他15名。

### 会議事項

引張り試験における伸びの換算方法に関する ISO 原案に対する検討を行なった。

日本海事協会および川鉄より、この換算方法による追試調査結果が報告され、実績値とほぼ一致するものであることが確認されたが、さらに丸鋼、熱延薄鋼板についてSS材クラスのもので確認してみることになった。

#### 機械試験方法 JIS 原案作成分科会

**第5回分科会** 開催日：2月21日。出席者：吉沢主査他16名。

会議事項

前回で引張試験片および引張試験方法の原案審議が完了したので、今回は JIS Z-2202-1956 金属材料衝撃試験片および JIS Z2242-1956 金属材料衝撃試験方法について逐条審議検討し、2~3 の申し合わせを行ない次回までに原案を作成することにした。

なお上記検討に当たり次のごとき資料の提出があった。

1. Vシャルピー衝撃試験の試験結果のバラツキ

2. 衝撃試験グループ検討結果

3. 溶接材料の切欠き衝撃試験方法

第6回分科会 開催日：3月30日。出席者：吉沢主査 他 18 名。

会議事項

前回の検討に従い作成された金属材料衝撃試験片および試験方法の原案に対し検討が行なわれ一部の訂正および補足を行ない最終改正原案とするということで審議を終了した。

新入会員氏名

(昭和42年4月1日~30日)

正 会 員	
副島 薫	八幡製鉄(株)技研
武智 弘	〃 〃
神林 郷	〃 戸畑
鈴木 千畝	〃 〃
小西 良和	住友金属工業(株) 和歌山
田中 幸雄	〃 〃
中村 昌明	〃 〃
池内 祥晴	〃 小倉
若井 邦夫	〃 鋼管
瓜迫 英俊	富士製鉄(株)広畑
梶井 雄作	〃 〃
正垣 昭夫	〃 〃
吉田 隆夫	〃 〃
吉田 隆男	〃 室蘭
小野 健二	日立金属(株)
竹内 丹	〃 〃
藤木 幹也	〃 安来工場
青山 和雄	川崎製鉄(株)水島
高橋 恭治	〃 千葉
笹島 保敏	日本鋼管(株)技研
徳力 靖二	〃 水江
山田 文雄	大同製鋼(株)中研
山元 幸一	〃 平井
立石 孝夫	後藤鍛工(株)大阪
平尾 茂樹	〃 〃
田中 義和	山陽特殊製鋼(株)技研

石田八十一	大阪製鋼(株)
黒沢 優	(株)日立製作所勝田
久保 邦夫	三菱化成工業(株)
斉藤 吉信	石毛伸鉄(株)
近藤 允蔵	赤羽冶金(株)
磯野 穰	住友金属鉱山(株)中研
坂本 洋夫	日鍛バルブ(株)
平 敏雄	呉羽製鉄(株)
赤沢 政成	日鉄鉱業(株)釜石
藤崎 正俊	日本金属工業(株) 相模原
明道 守弘	明道金属(株)
星野 三郎	石川島播磨重工業(株)
片山 則男	三興線材工業(株)
木藤 一郎	厚木自動車部品(株)
高平 満	三星金属工業(株)
山口 征一	キャタピラ三菱(株)
国分 馨	日本精練(株)枚方
神馬 敬	東京工業大学
沢本 八衛	鈴鹿工業高等専門学校
赤星 光	新居浜工業高等専門学校
片山 修一	長野工業高等専門学校
佐々木伸一	〃 〃
学 生 会 員	
大沢 肇	早稲田大学理工学部
榊原 俊夫	〃 〃
先川 精次	〃 〃
土田 繁雄	〃 〃
中村 茂弘	〃 〃

横山 浩之	早稲田大学理工学部
渡辺 登	〃 〃
天野 繁	東北大学工学部
田中 邦男	〃 〃
花田 修治	東北大学大学院
横山 忠正	〃 〃
前田 瑞夫	京都大学工学部
山内 昭男	〃 〃
湯浅 光行	京都大学大学院
大木 輝久	東京大学工学部
薮 茂則	〃 〃
丹羽 直毅	東京大学大学院工学部
城井 幸保	九州大学工学部
芹野 洋一	〃 〃
桑原 守	名古屋大学大学院
榊原 浩	〃 〃
外 国 会 員	
175 R.D. Saunders	(Canada)
176 M.D. Shaw	(England)
177 A. Boussion	(France)
178 Dario Andreani	(Italy)
179 University of Minnesota	(U.S.A.)
180 王大倫	(中華民国)
181 林楊梅	(中華民国)
182 姜思源	(大韓民国)

## 支 部 記 事

### 中国四国支部

当支部では役員改選に伴い、これまでの常務理事を「理事」にまた理事を「評議員」に改め、新たに支部幹事を設けることになり、下記のごとく支部規則の一部改正および役員の改選が行なわれました。

#### 支部規則

第4条 支部に次の役員を置く

(旧) 支部長1名 支部常務理事若干名 支部理事若干名 支部監事2名  
役員の決定は、会員の互選による。

第4条 支部に次の役員を置く

(新) 支部長1名 支部理事若干名 支部監事2名 支部評議員若干名 支部幹事若干名  
役員の決定は会員の互選による。但し支部監事は支部理事を兼任することができない。また支部幹事は会員中より支部長が委嘱する。

第5条 支部長は支部を代表し、会務を総理する。支部長事故あるときは常務理事のうち1名がこれを代理する。

第5条 (新) 支部長は支部を代表し、会務を総理する。支部長事故あるときは理事のうち1名がこれを代理する。

支部監事は会務を監査する。

支部評議員は重要な会務を評議する。

支部幹事は支部長の意を受けて会務を運行処理する。

#### 支部役員

支部長	矢野 巖			
理事	新持喜一郎	藤田 春彦	渡辺 章三	
	岩宮 久	竹本 国一	山本 博	
	熊田健三郎	金森 政雄	村尾時之助	
	岩村 英郎	白松 爾郎	平倉 園衛	
	国本 陽治	神野 修一		
監事	丸山 益輝	山本 忠次		
評議員	近藤 明	田中 重芳	岩本 五郎	
	松村 守夫	山下 伸六	鈴木 禎一	
	数納 勲郎	西郷 吉郎	古賀 精華	
	副島 恒夫	山本 治男	橋岡 整邦	
	福田 解	木村 素介	湯池 定朗	
	楠瀬 碩雄	森山 知幾	奥原 次郎	
幹事	藤井 政夫	水田 正史	田中 隆平	
	大森 正信	柴井 武彦		